1　B－2区（東から）

2　B－2区（北から）

1　B－2区西壁

2　B－2区北壁

1　B－3区（南から）

2　B－3区（東から）

1　B－4区（北から）

2　B－5区（西から）

1　B－5区（西から）

2　B－5区（東から）

1　B－6区（西から）

2　B－6区（東から）

1　C－1区（西から）

2　C－2区（西から）

1　C－2区（南から）

2　D－1区（南から）

1　E区（南から）

2　E－1区（北から）

1　Ｅ－１区石列（東から）

2　Ｅ－２区（北から）

1　F区（南から）

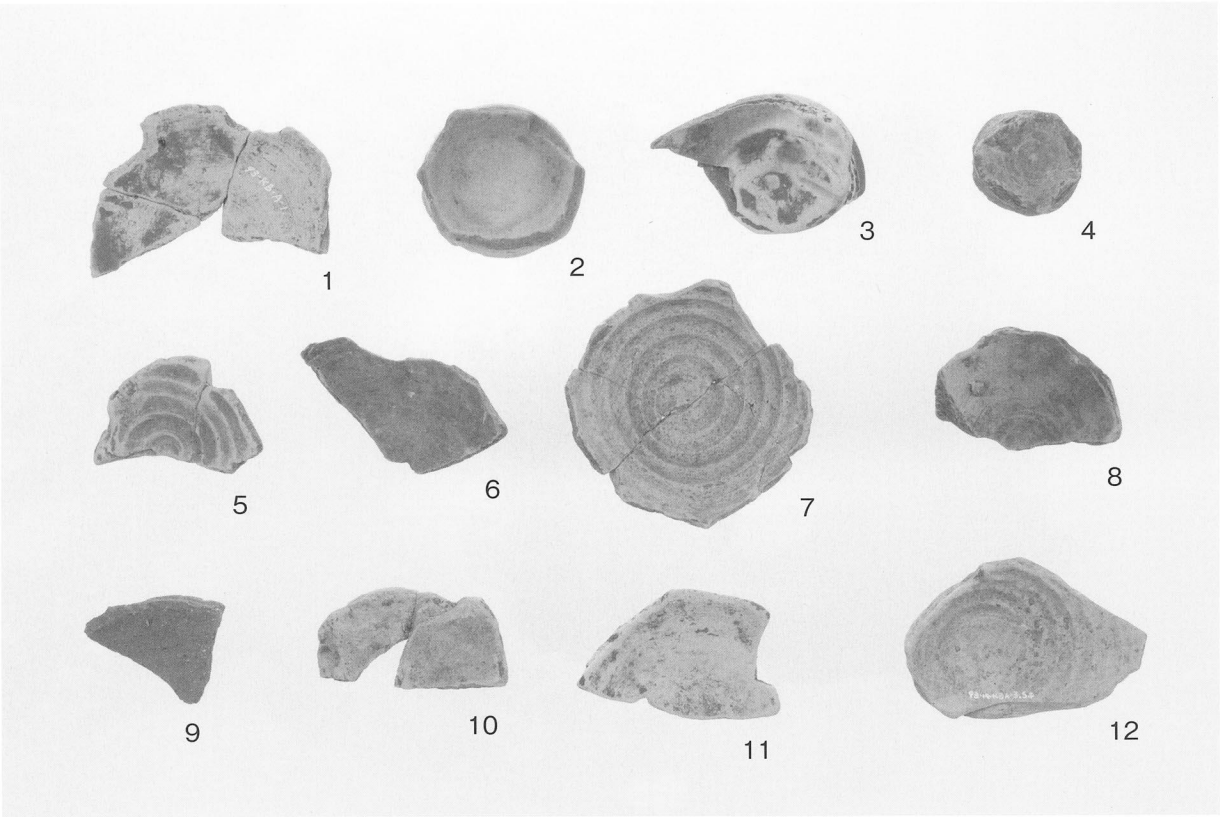
2　F区（西から）

1　Ｆ－１区（北から）

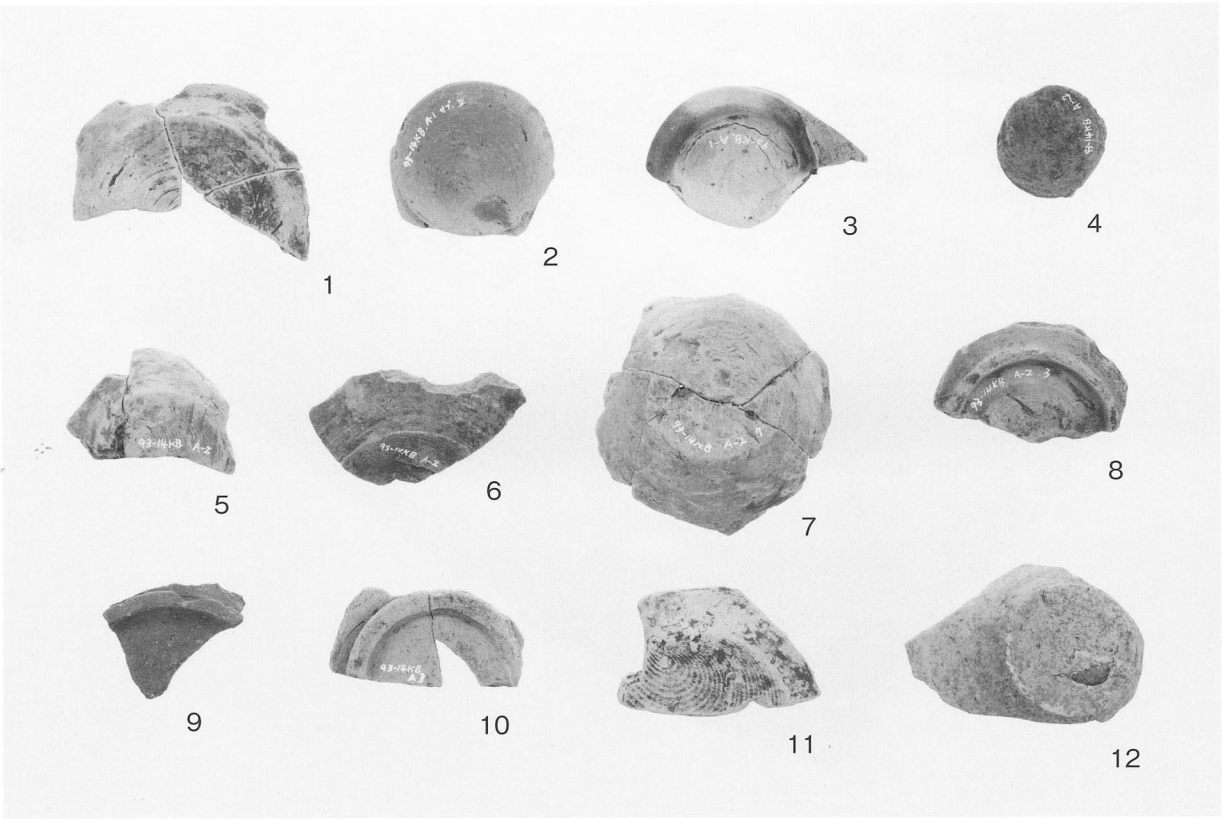
2　Ｆ－１区（南から）

1　F－2区（南から）

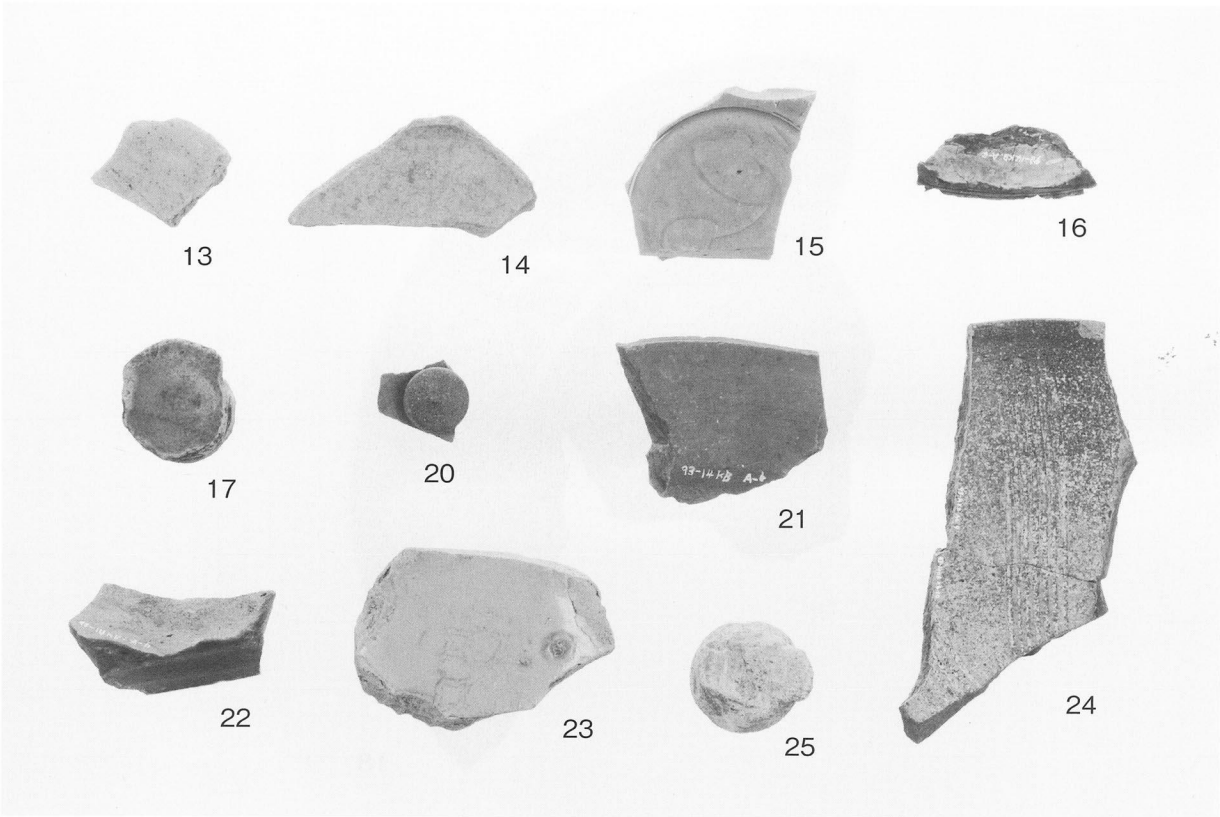
2　F－2区（西から）



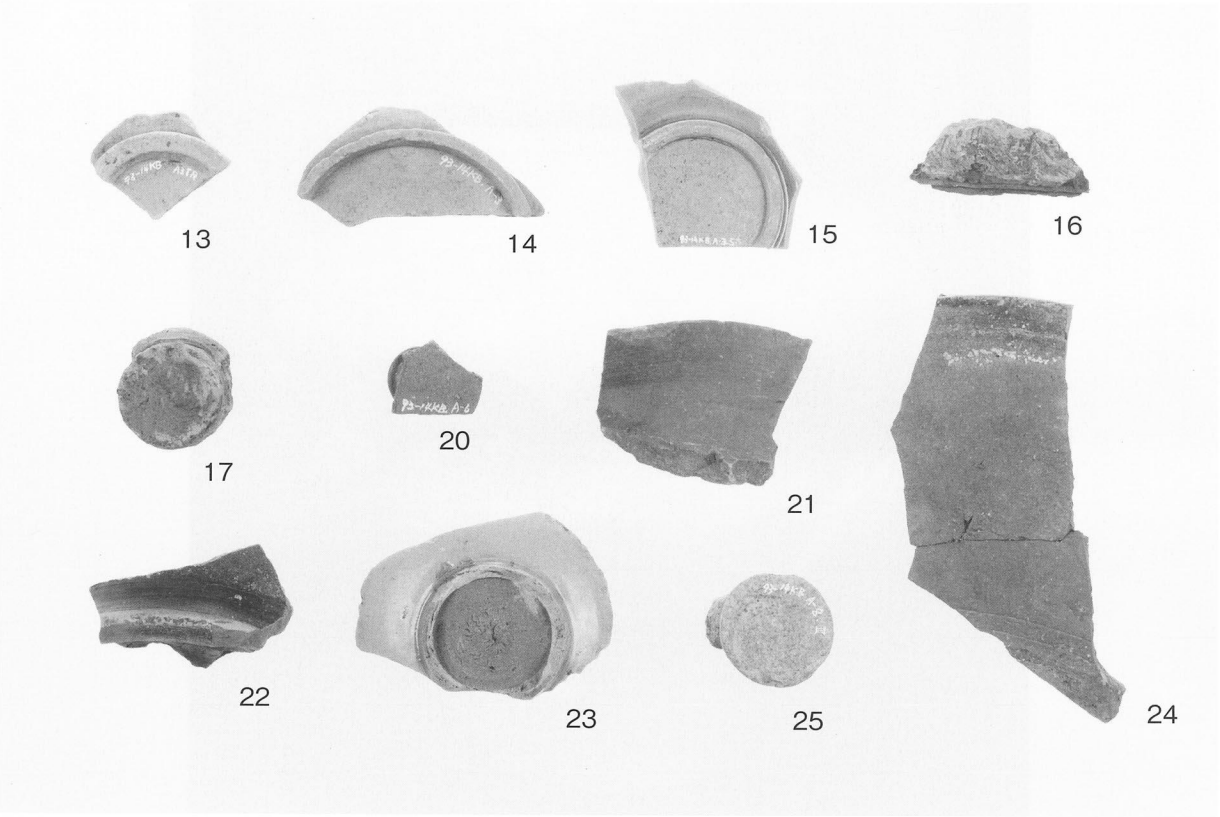
1　A－1・2・3区出土遺物（内面）



2　A－1・2・3区出土遺物（外面）

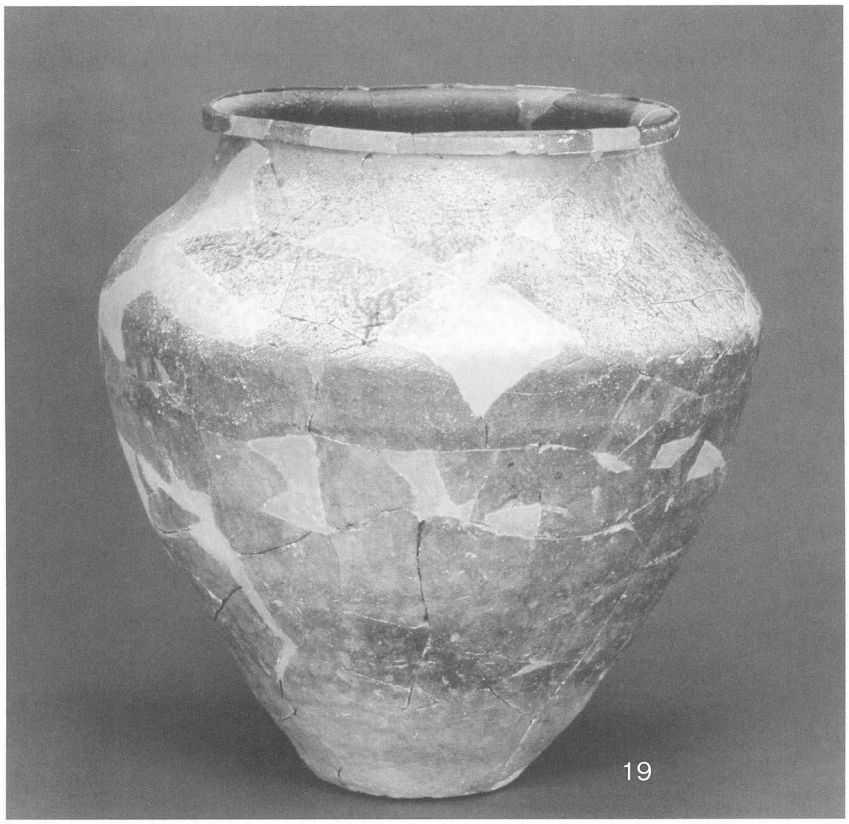


1　A－3・4・6・8区出土遺物（内面）

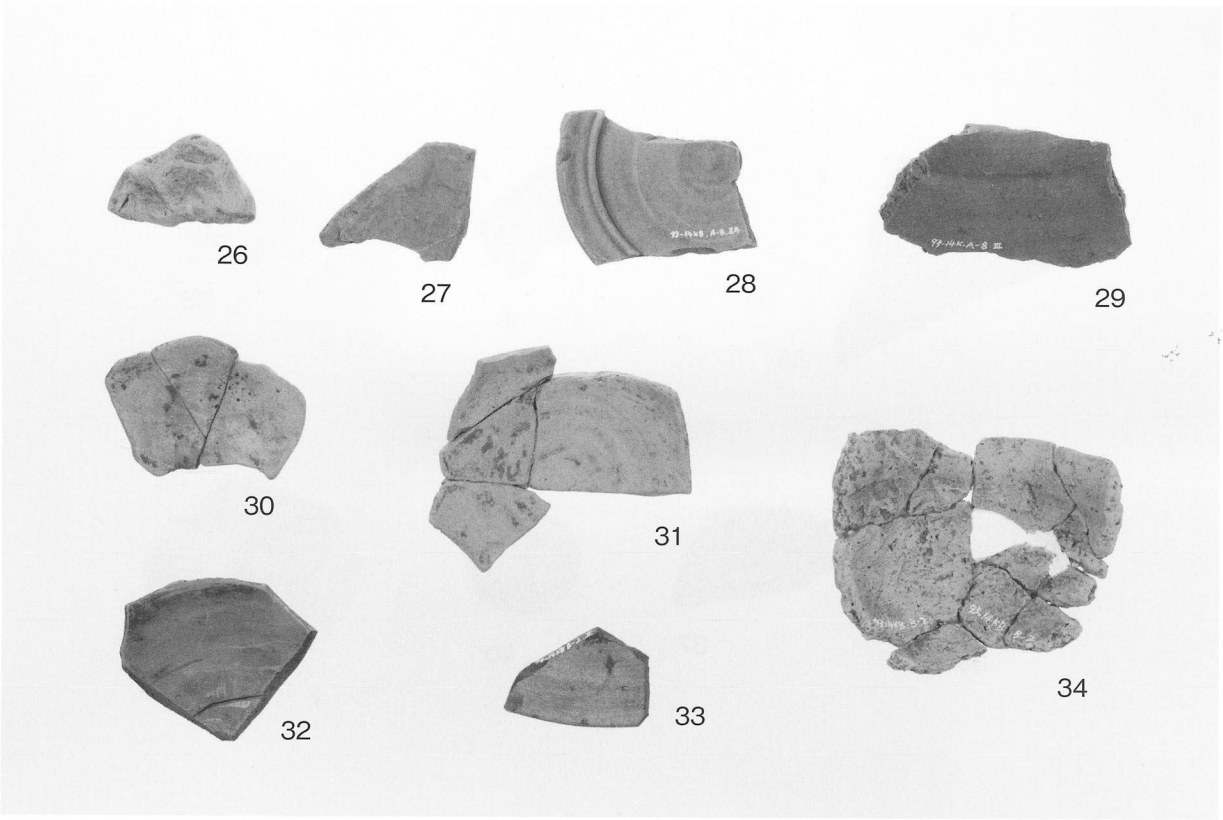


2　A－3・4・6・8区出土遺物（外面）

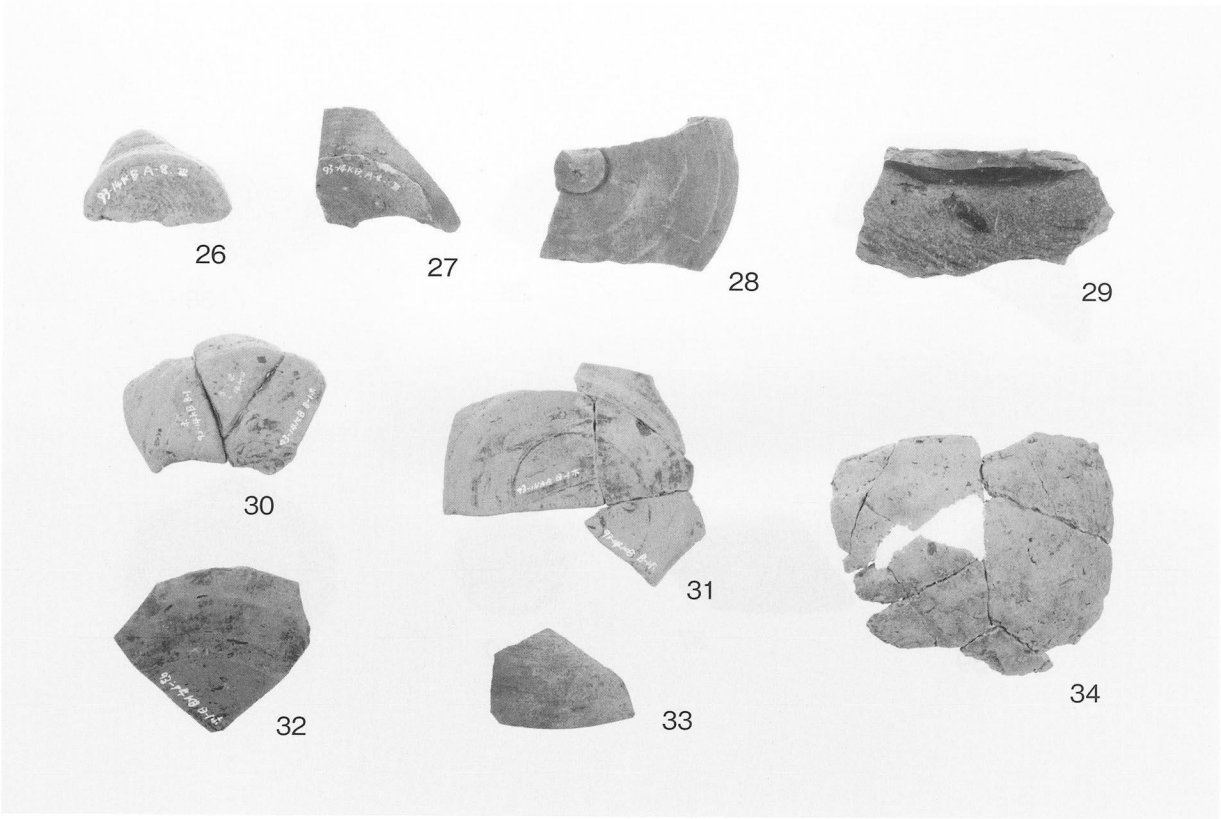
1　A－6区出土　海獣葡萄鏡



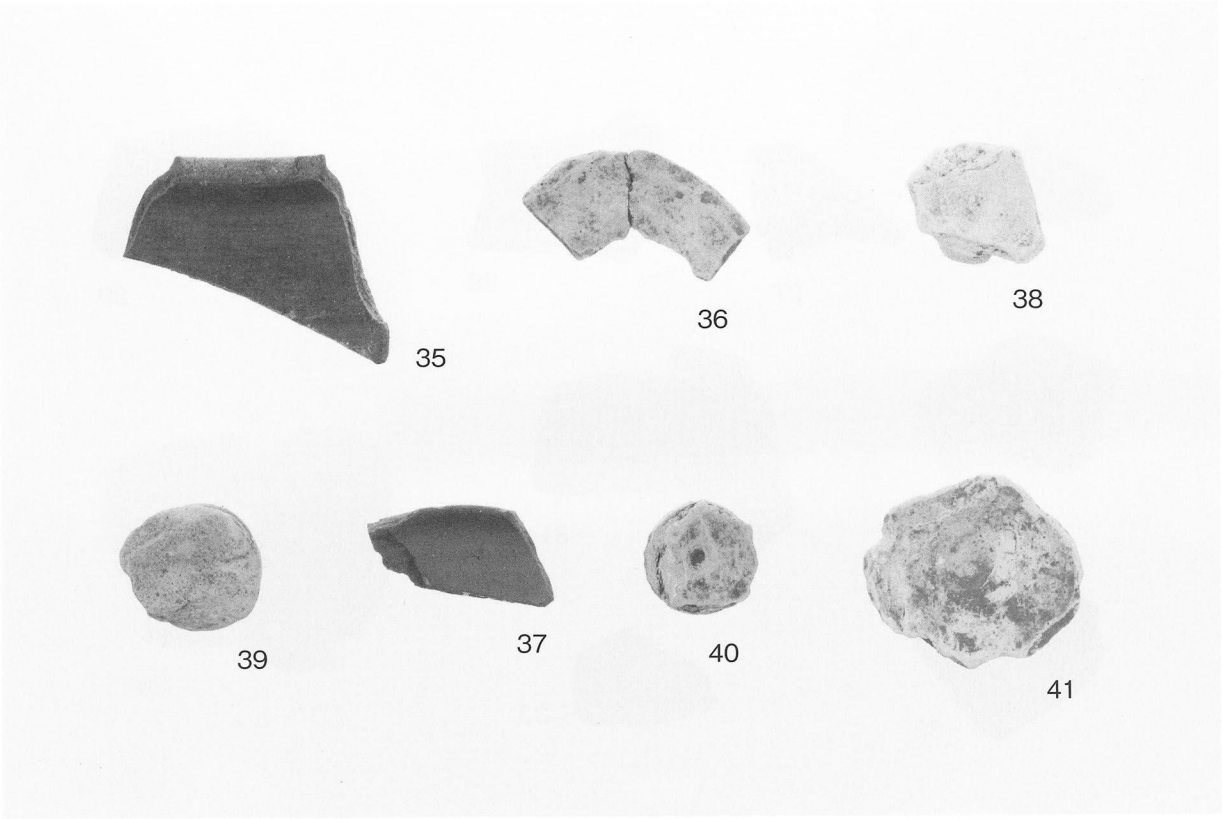
2　A－6区出土　常滑甕



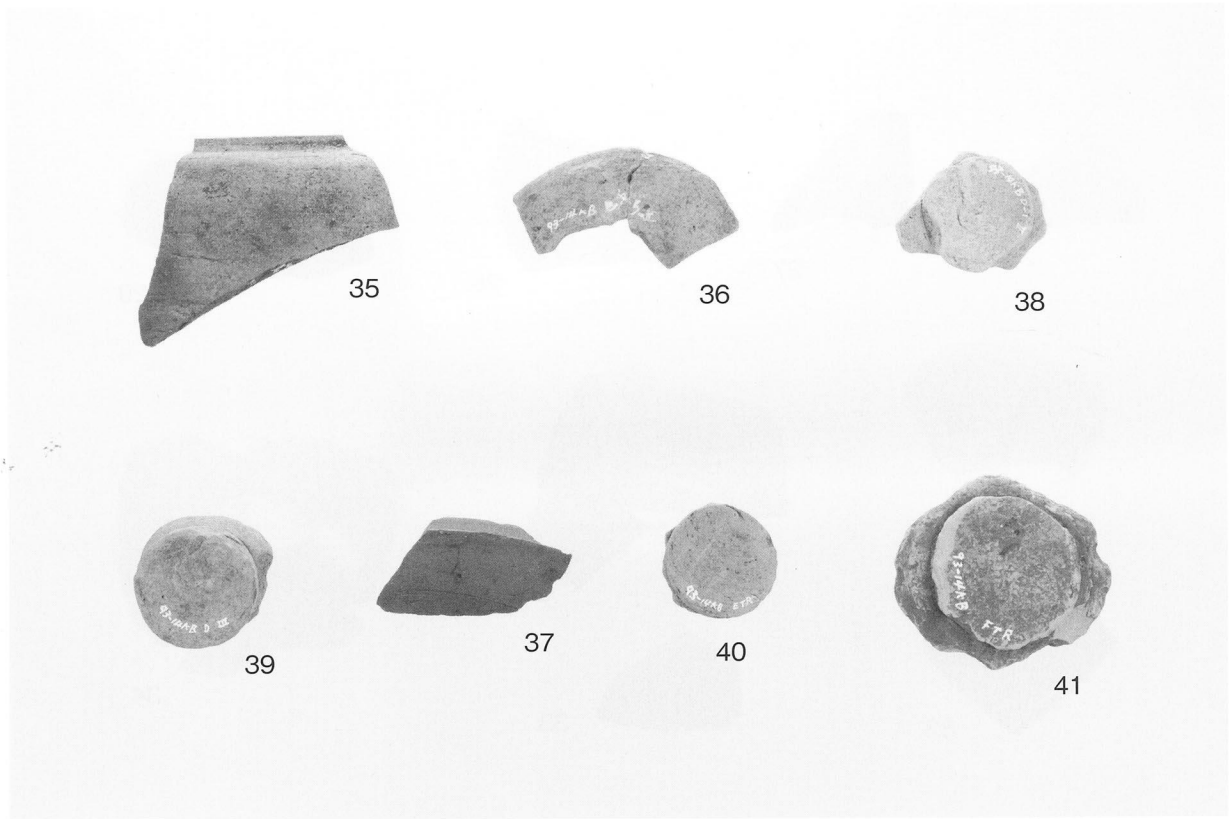
1　A－8、B－1・2区出土遺物（内面）



2　A－8、B－1・2区出土遺物（外面）



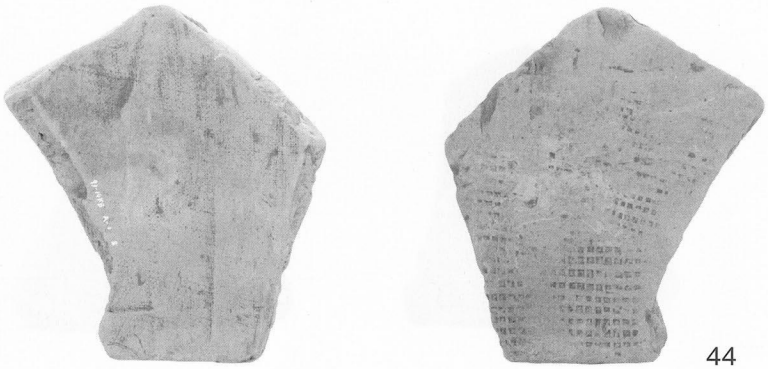
1　B－2・5、C－2、D－1、E、F区出土遺物（内面）



2　B－2・5、C－2、D－1、E、F区出土遺物（外面）

42

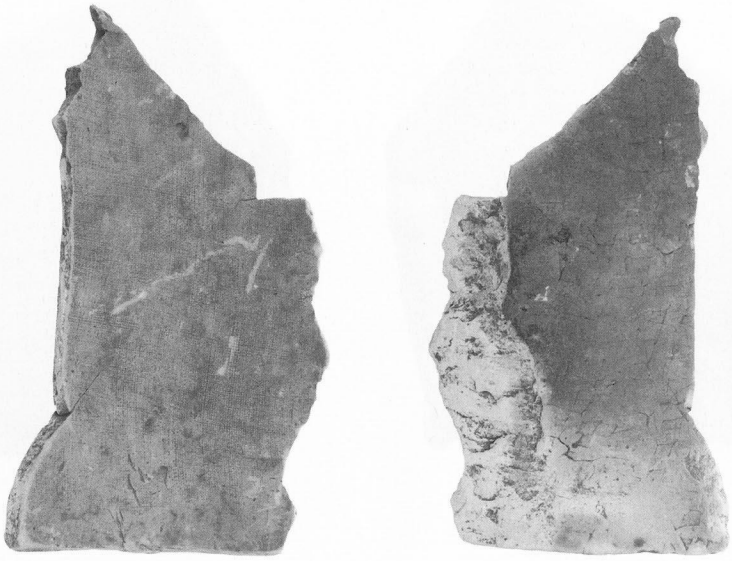
43



44

1　A－1区出土瓦

45

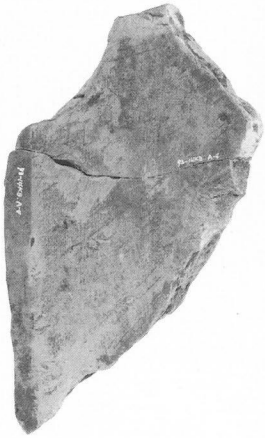


46

47

1　A－1・2区出土瓦

48



49

50

1　A－4、B－3区出土瓦

報告書抄録

ふりがな	とさこくぶんじあと
書名	土佐国分寺跡
副書名	第４次発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	南国市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第24集
編著者名	森田　尚宏
編集機関	南国市教育委員会
所在地	〒783-0004　高知県南国市大埇甲2301
発行年月日	2009年３月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
土佐国分寺跡（とさこくぶんじあと）	高知県（こうちけん） 南国市（なんこくし） 国分（こくぶ）546他	39204	040137	33° 35′ 54″	133° 38′ 24″	1993.6.1 ～ 1993.12.20	189.6㎡	重要遺跡 確認調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
土佐国分寺跡	寺院跡	古代 中世	金堂基壇跡 土壇状遺構 経塚状遺構 柱穴 溝跡 竪穴住居跡	弥生土器 土師器 須恵器 瓦 土師質土器 青磁 常滑 海獣葡萄鏡	金堂基壇跡として版築土による掘込み地業が確認された。また、中世における土壇状遺構と集石による経塚状遺構が検出され海獣葡萄鏡を納め埋納された常滑甕が出土した。

要約

土佐国分寺跡は、大正11年に国指定史跡となっており、長宗我部元親により再建された金堂、仏像２体、梵鐘なども重要文化財として国の指定を受けている。土佐国分寺跡の発掘調査は昭和52年の鐘楼建立及び書院建て替えに伴い行われて以降、現状変更に伴う発掘調査が行われていたが、伽藍配置等については未確認であった。このため昭和62・63年、平成２年にかけて国庫補助による第１～３次発掘調査が行われ、掘込み地業による礎石建物跡や寺域北側で僧坊跡と考えられる掘立柱建物群等が検出されたが、金堂跡等の具体的遺構は確認されなかったため、平成５年度に国庫補助による第4次発掘調査が行われた。調査の結果、現本堂と大師堂に重複する範囲において金堂基壇跡と考えられる版築土による掘込み地業が確認された。基壇跡の規模は南北18m、東西30m前後であり、他の国分寺跡の事例から金堂は４間×５～７間の規模であったと推定される。また大師堂北側では中世の土壇状遺構とその上部では集石中より海獣葡萄鏡片が納められた常滑甕が出土しており、経塚状遺構と考えられた。他の調査区では古代寺院に関する明瞭な遺構は検出されなかったが、土塁等の構築が中世以降であることを示す資料を得ることができた。

土佐国分寺跡

－第４次発掘調査報告書－

（南国市埋蔵文化財発掘調査報告書　第24集）

2009年３月

発　行　　高知県南国市教育委員会
高知県南国市大埇甲2301
電話（088）880－6569

印　刷　　川北印刷株式会社